

# 地域に責任を持ち 「チーム医療」の担い手を育てる

## 東葛病院の新病院建設にあたって

「東葛病院の立て替え」が新しい時代を拓く  
東京勤労者医療会 理事長 本間 章



ています。

2013年度の着工、

2015年完成を目指す。

同時に、建設をさ

さえる「東京勤労会5カ

年医療・経営構想」を策

定する委員会を発足させ

議論を進めています。

■

1993年、代々木病

院の建て替えを模索して

いる中で東葛病院との合

同をしました。そのこと

により、東葛病院の再建

と代々木病院の建て替え

の展望がつけられました



東葛病院の新病院の完成予想図

今年度、東京勤労者医療会は、法人の将来を決する「東葛病院建て替え」事業に着手しました。この成功に向け、全事業所、全職員が将来展望に確信をもち、課題を克服し、責任を果たしていくことを重点課題として



代々木病院は「ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践」をめざし共同組織のみなさんとともに歩んできました。また、住み続けられるまちづくりの運動や平和を守る活動も進めています。

この間の医学・医療の進歩にともない医療提供体制は変化を求められています。地域の中でそれぞれの病院の機能分担が進められ、救急病院や診療所との連携をしっかりと

た。地域の医療を守り、患者さんを守るという一心で団結し、共同組織の方、地域の方、全国の仲間の方も借りてやり抜いてきたことです。

センター病院である東葛病院は、東京勤労者医療会全体を支えるという大きな役割を持っていきます。小児と成人を合わせ年間1万5千件の救急

患者さんを受け入れており、地域から大いに期待されています。

今後、急性期から慢性期まで総合的にかかわれる病院として、地域に責任をもった医療・介護を提供し、さらには代々木病院との連携・人的交流も積極的に進め、職種の垣根を越えた「チーム医療」の担い手を育てる場として発展させていきます。

■

代々木病院の地域医療「地域で暮らすことを支える」さらに発展させるために

代々木病院 院長 井上 均

して、患者さんの要求にこたえていかなければなりません。そのような状況で数年前に、東葛病院に外科を集中し、リハビリ、在宅支援を強化した病院に機能を替えました。

しかし都内の中小の病院の医療・経営は益々厳しさを増しています。代々木病院が「無差別平等の医療・介護」の理念のもとこの地域で存在しえるのは、地域と共同組織の皆さんの支えがあるからと感謝しております。

新しい東葛病院は、つくばエクスプレスの「流山セントラルパーク」の駅前に新築移転します。都内からのアクセスが良

いと考えています。私たちは、一貫して、室料差額のない無差別平等の医療をめざし、最も困難な人に寄り添ってききました。私たちのかけがえのない医療と経営を成り立たせることは、大変困難な課題です。そのことも認識しながら、知恵と工夫を出しあい成功させなければならぬ事業です。

■

困難な人に寄り添ってききました。私たちのかけがえのない医療と経営を成り立たせることは、大変困難な課題です。そのことも認識しながら、知恵と工夫を出しあい成功させなければならぬ事業です。

新しい時代を切り開く事業にぜひ共同組織、地域の皆さまもご参加いただけます。どうぞよろしくお願いいたします。

かなりの、外科的な治療や大きな検査など、都内からも東葛病院を利用しやすくなるため、今以上に連携を密にし積極的に活用していきます。

また東葛病院は、臨床研修病院として毎年研修医を迎え入れています。医師、看護師などの後継者づくりにおいても、大きな役割を果たします。東葛病院との人事交流も活発におこないます。

代々木病院は今後も地域の役に立つ、信頼される病院として成長していくため、引き続き力を尽くす決意です。東葛病院の立て替えの成功は、代々木病院の発展にとっても大きな意味のある取り組みになります。地域、友の会の皆様のご協力をお願いいたします。

歯並びの回復は大切なこと

■

歯科医師 妹尾ゆかり (代々木歯科)



歯並びの回復は大切なこと

私たちの歯は親知らずを除いて、上下各14本の歯があります。そして清掃が難しい・負担がかかるなどの理由から奥歯から失われることが多いのです。

しかし奥歯を抜いても「不自由しないから何も代わりに入れなくていい」という方がいらっしゃいます。これは場合によっては危険な考えなのです。歯のないところは何らかの治療をして、歯並びを回復させる理由は、食べるのに不自由しないためだけではないのです。

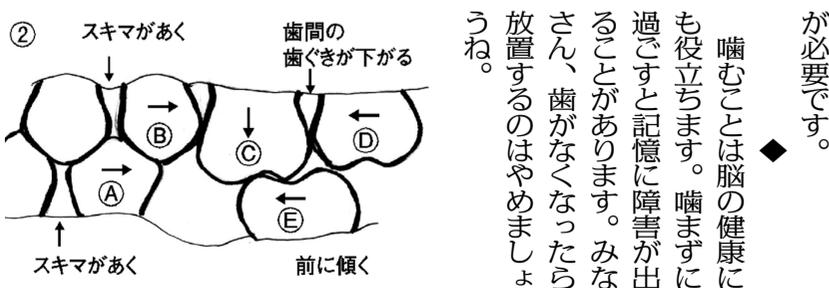
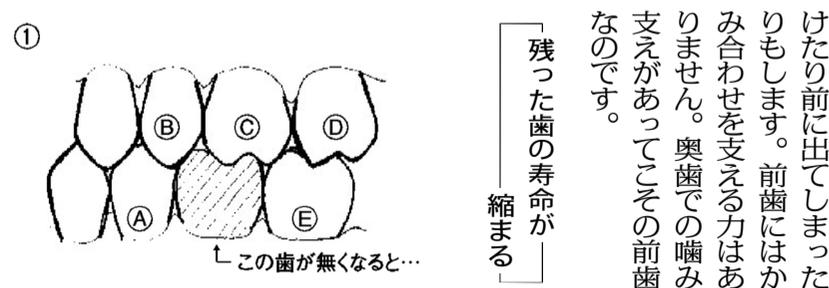
かみ合わせ全体に影響

■

入れ歯は1〜2本からはじめたほうがいいでしょう。この場合入れていく不自由さに比べて、入っていない歯が勝つかもれません。しかし入れている歯の寿命が縮まり、もっと大きな入れ歯から使い始めることになり、かえって不自由です。

しかし一番奥の大きな歯を失った場合は、患者さんの希望がなければ私たちも何もしないことも多いです。患者さんが不自由する場合は、インプラントを植えたり入れ歯を入れる場合もありです。状況に合わせてみます。特例として、奥から2本なくて入れ歯を入れない場合は、かかりつけ歯科医のしっかりした管理が必要です。

■



歯は噛む相手の歯がなくなると、伸びてスペースを埋めようとしていたり、隣の歯が傾斜してかみ合わせの崩壊を招くことが多いのです。歯の移動は徐々に進行し、かみ合わせ全体に影響します。いざ治療しようとした時にはきちんと元に戻す